

新型コロナウイルス

ー現在までにわかっていることー

春日井市民病院 呼吸器科

部長 山本 俊信

2009年4月にメキシコで発生した新型インフルエンザ（ブタ由来A/H1N1インフルエンザS.O.I.V）は世界的に拡大し、6月12日には世界保健機構（WHO）は、「パンデミック」を意味する警戒度



「フェーズ6」とし、世界的なまん延状態であるとの宣言を行いました。日本の新型インフルエンザ対策は、高病原性鳥インフルエンザ（A/H5N1）のヒトへの感染拡大を想定してガイドラインが策定されていたため、当初は、検疫、措置入院、発熱外来などがおこなわれ、医療現場は混乱しました。その後6月時点で5000人、7月末時点で

5000人を超える遺伝子検査（PCR）による確定患者の報告があり、7月24日には「改正省令」が施行されより現実的な対応に変更されています。

今回の新型インフルエンザは「高齢者の罹患率が低いのか?」「夏季に流行する理由?」などまだ不明な点も多いのですが、現在までにわかっている事実を正確に理解することによって不要な不安をなくし、冷静な対応をしていただけるよう、現在までにわかっていることをお知らせします。

新型インフルエンザの症状

新型インフルエンザの症状は、季節性インフルエンザの症状と変わりませんが、悪心、嘔吐、下痢などの消化器症状を呈する例が比較的多くみられました。

また、発症は高校生を中心とした若年者が多く、高齢者には少ない特徴がありますが、その一因として、60歳以上の33%に、新型インフルエンザに対する免疫が存在しているとの報告もあります。

新型インフルエンザの重症例

歴史的な大流行で最も有名な1918年の「スペイン風邪」では、全世界で5〜6億人のヒトが罹患し、数百万〜数千万人が死亡したとされています。このときの死亡者は高齢者ばかりではなく比較的健康的な多くの若年者も命を落としたことが明らかとなっており、今後の動向に注意する必要があります。

現時点での、わが国における死亡者は基礎疾患をもつ比較的高齢者を中心に報告されており、7月上旬から10月25日までの患者数は推定431万人。期間中の死者は33人で、死亡率は0.001%以下にとどまっています。海外に比べ死亡率が低いことについて厚労省は「医療体制が整い、患者に速やかに治療が行われるためではないか」と分析しています。

基礎疾患、妊婦、肥満などの重症化のリスクを有する患者さんは、早期の医療機関への受診が重要です。

インフルエンザ脳症

国立感染症研究所の調査では、季節性インフルエンザでの脳症は例年100人程度で5歳以下が中心ですが、新型インフルエンザでは年齢の高い子供でも脳症を発症し、例えば約3カ月間で約50人と患者数が多いのが特徴となっています。

- (1) 呼び掛けに答えられないなど意識レベルの低下がある。
- (2) けいれんが15分以上続く。
- (3) 意味不明の言動がみられる。

以上の症状がある場合には、インフルエンザ脳症の疑いがあるので、医療機関への早期受診が必要です。

春日井市民病院での 新型インフルエンザ対策

1. インフルエンザ様の症状で 受診される患者さんへ

- (1) 熱と咳のある方はマスクを着用してください。
- (2) 咳やくしゃみの際は、ティッシュ

シユーパーパーで鼻と口を覆ってください。手を頻回に洗ってください。

- (3) 待合室を分けてお待ちいただくことがあります。
- (4) 待ち時間を短縮し救急医療を円滑に提供するため軽症の方はかかりつけ医あるいは近くの医院を受診されることをお勧めします。
- (5) 救急外来を受診される前にできれば電話連絡をお願いします。

2. ご面会の方へ

- (1) 熱・咳・鼻水・鼻つまりのどの痛みのある方のご面会はお控えください。
- (2) 小児は感染しやすく、重症化することがあります。ご面会はお控えください。
- (3) 面会終了後は、院内にとどまることなくご帰宅ください。



3. 新型インフルエンザの 検査について

- (1) 新型インフルエンザの「確定検査」は行っていません。
- (2) 「インフルエンザ迅速検査」は、行っていますが発熱1日目では検出率が低い場合があります。

4. 抗インフルエンザ薬の 予防投与について

- (1) 抗インフルエンザ薬の予防投与は、厚生労働省の指針に則って処方します。
- (2) 原則的に、感染すると重症化する恐れのある左記の方に提供します。

【重症化しやすい基礎疾患 及び対象者】

慢性呼吸器疾患
(肺気腫、喘息など)、
慢性心不全、腎不全、
免疫抑制状態
(ステロイド使用など)、
癌治療中、糖尿病、妊婦、
高齢者

5. 新型インフルエンザワクチンについて

新型インフルエンザワクチンは、厚生労働省の定めた優先順位に則って接種しています。
※今年の季節性インフルエンザワクチンの接種は終了しました。

今後、みなさんが新型インフルエンザの現況をしっかりと理解し、恐れることなく冷静に行動できるように、医療機関や行政機関と連携した対策を実践していきたいと考えています。



認定看護師の紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 細野 美穂子



私は、皮膚・排泄ケア認定看護師としてストーマ(人工肛門)外来や院内の褥瘡(床ずれ)の予防やケアなどの活動をしています。ストーマ外来は月・金13時30分～

(要予約)相談を受けています。相談したいことがある場合、まず外科外来でストーマ外来に予約(電話可)をしてください。当院で手術をしていない方の受診もできますが、二度外科に受診していただく必要があります。

褥瘡は「床ずれ」とも言われ、長時間同じ姿勢で寝ていることで発生すると考えられています。しかし、実際にはそれだけではなく、座っているもお尻がずり下がるときの「摩擦」や、オムツ使用時の「蒸れ」で褥瘡が発生する危険が増えます。様々な面から少しでも褥瘡を減らすことができるよう日々考えて活動しています。

今後は病院内だけでなく広く一般の方にも褥瘡予防について知っていただけるような取り組みが必要と考えています。入院中、お部屋にお邪魔することもあるかと思いますが、質問があったら気軽に声をかけて下さい。

病院ニュース

市民病院防災訓練

11月7日(土)市民病院の正面玄関、中央ホール等で防災訓練が行われ、市民病院職員のほか市消防職員、春日井小牧看護専門学校生徒ら131人が参加しました。

東海地震が発生したという想定で、負傷した被災者を症状の重度に応じて区分治療するトリアージ訓練と、初期消火や避難等の消防訓練の2本立てで行われました。



トリアージ訓練では、軽症から重症まで怪我のメイクを施された被災者役が次々と搬送され、待機し

ていたトリアージ班の職員は症例の確認をするともに、重症度の選別、搬送、応急処置及び経過観察をしていきました。被災者役の助けを求め大きな声や、傷みを訴える迫真の演技により、現場は本番さながらの雰囲気になりました。

続いて、地震により病棟4階デイルームで火災が発生したという想定で消防訓練が行われ、看護師らによる避難誘導や放水訓練、4階からはしご車による救出活動、消火訓練などを体験し、参加職員全員が有事に備え、必要な知識を身に付けました。

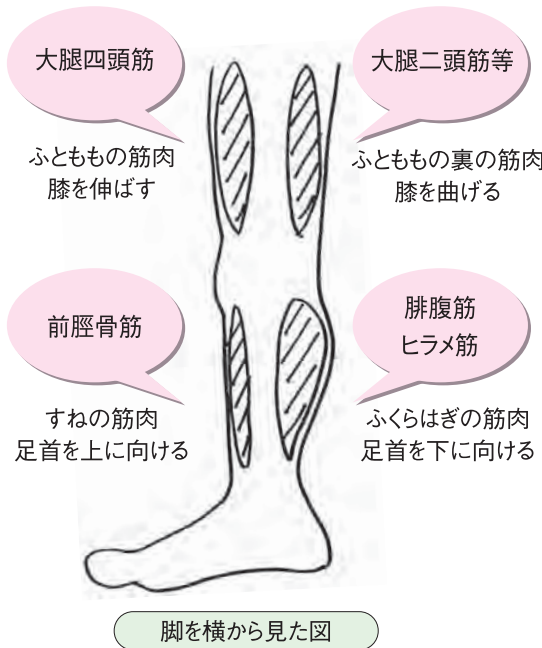
シリーズ 転倒予防

● 老化は脚から

高齢者が増える今、転んでケガをしてから寝たきりになってしまおう方が増えています。

これ以上そんな方が増えないように、今回より転倒予防の情報を発信していきたいと思えます。

● 筋肉の力は加齢により落ちていく



脚を横から見た図

高齢者で転んだ経験のある方の多くは、右図が示す下肢の筋力が低下しています。放っておくと再び転倒し骨折など大きなケガの原因になる可能性も高いのです。

そこで今回から『簡単にできる転倒予防トレーニング』として、毎日ちょっとした時にできる運動をご紹介します。

● 転倒予防トレーニングその1

～ 膝の筋力を強くするトレーニング ～

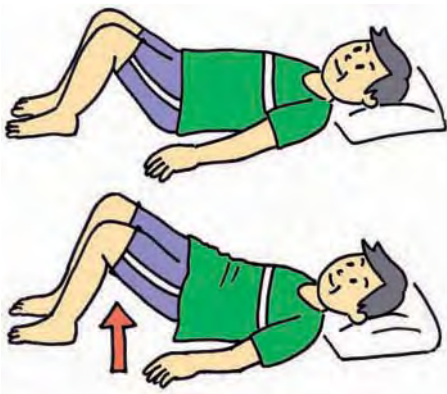
脚挙げ…膝を伸ばす筋力を強くする運動

- 1 仰向けに寝て、片膝を立て、もう一方は伸ばしておく
- 2 伸ばした脚をそのまま床から20cmほど挙げ、10秒程度止める
- 3 ゆっくりと降ろす
- 4 これを10～20回繰り返す



おしり挙げ…膝を曲げる筋力を強くする運動

- 1 両膝を軽く立てて仰向けに寝る
- 2 腰がまっすぐになるまでおしりを挙げ、ゆっくり降ろす
- 3 これを10～20回繰り返す



《運動の注意点》

- 運動中は息を止めない
- 無理はせずマイペースで
- 痛みのある体操は回数を減らしてみるか、中止しましょう。
- 現在通院中の方は医師に相談・確認のうえ行って下さい。

お問い合わせ先 リハビリテーション技術室(当院1階)